

全国的に感染拡大傾向の“新型コロナ”「JN.1」とは？ 専門家に聞く“検査・受診・ワクチン”への対応は

2/6(火) 19:21 テレビユー山形



テレビユー山形

<https://news.yahoo.co.jp/articles/4b039c03e2456e589238c533dfc3709d895a5b8a?page=1>

新型コロナの感染者が全国的に増えています。山形県内の状況について専門家に話を聞きました。

全国的に感染拡大傾向の“新型コロナ”「JN.1」とは？ 専門家に聞く“検査・受診・ワクチン”への対応は

山形大学医学部附属病院・森兼啓太教授「流行が少しずつ大きくなってきている。去年の夏から秋にかけて9月ごろがピークだったと思うがそこに近づきつつある状況」

山形県の感染症専門家会議のメンバーでもある森兼教授によると、県内も拡大傾向だということ。

直近では647人となっていて去年9月中旬の調査以来ということ。

今流行している新型コロナのウイルスは「JN.1」と呼ばれるもの。

森兼教授は、おそらく県内で拡大しているのもこのJN.1だろうと話します。

では、このJN.1はどういったウイルスなのでしょうか。

山形大学医学部附属病院・森兼啓太 教授「あくまでオミクロン株のグループのひとつ。性質が大きく変化しているということではない。発熱やのどの痛みなどの主な症状も特に変わっていない」

JN.1だから何か新しいことがあるのかということ、あくまでオミクロン株の亜種ということで、「これまでのウイルスと特段変わったことはない」ということ。「発熱、のどの痛みという症状も一緒」ということ。

対策はというと、基本的には感染拡大させない、これまで同様の行動をすれば大丈夫ということでした。

では、今後私たちは新型コロナとどう向き合う必要があるのでしょうか。

きょうは2つにポイントを絞ってみたいと思います。

1つ目は「検査・受診はどうすべきか?」ということです。5類移行後は新型コロナの検査は有料になっていますよね。どのタイミングで、こういった状況のときに受診すべきなのか。

2つ目は「ワクチンは接種すべきか?」です。新年度からは有料になるため、これも悩むポイントだと思います。

この2点について、森兼教授の意見は。

山形大学医学部附属病院・森兼啓太 教授「大多数の軽症で済む人は診断を受けても家で寝ていてとなる。最初から家で寝ていても同じことになる。一方で重症化しやすい要素を持つ人は、インフルエンザではないことも確かめて何種類かあるコロナの薬を処方してもらった方が得策」

山形大学医学部附属病院・森兼啓太 教授「新型コロナは大部分の人にとっては深刻に考えなくてもいい病気になっている。(ワクチンは)高齢者や持病のある人にとっては重症化を防ぐ効果はまだ残っている。個人個人で判断して接種するかしないか決めるという流れになってきている」

森兼教授は誰もが検査して、誰もがワクチンを打つ段階は過ぎたという認識を示していました。

ただ…重症化リスク等のある人は新型コロナの薬やワクチンが有効な場合もあるということです。自分のリスクを理解し考えて行動する時期になっているということです。

まとめです。

山形県内も新型コロナ（JN.1）は今後も拡大する可能性は十分あるということです。対策についてはこれまで同様の感染対策をしていれば拡大をある程度コントロールすることができるということです。

何が大事なのかというと、今後の向き合い方、検査やワクチン接種については自分の体のリスク、例えば重症化しやすいなどリスクなどを考えて、自分で行動するようにしましょうということでした。

テレビュー山形